

## 問 題

私たちには生まれた瞬間から母親の存在がある。母親は遺伝的・発達の最も近く、互いに依存し合う関係であり、共生関係が続きやすい。

乳児は、生後まもなく第一次養育者に対し、特別な感情を抱く。この感情のことを、Bowlby は「愛着(アタッチメント)」と説明した。「愛着(attachment)」とは、危機的な状況に際して、あるいは潜在的な危機に備えて、特定の対象との近接を求め、またこれを維持しようとする個体の傾性である(Bowlby, 1969)。

乳幼児からの愛着対象との相互作用によって作られた自分自身が愛着対象にどのように受容されているかについての自己に対する主観的な確信と、その愛着対象からどのような応答を期待できるかについての他者に対する主観的な確信のことを内的作業モデルと呼ぶ(2002 丹羽)。内的作業モデルとは、自己並びに他者への信念や期待のことであり、個人が自身のおかれた他者との関連性や状況に応じて、そこにうまく対処、適応するために形作られていく心的な表象として捉えられている(金政, 2007)。

愛着対象の作業モデルは愛着対象以外への他者へと般化される(Bowlby, 1973)。内的作業モデルに基づいて対人的出来事を知覚し、解釈し、未来を予測し、自らの行動プランを立てると考えられ、親への愛着による内的作業モデルによって他の対人関係が規定されるといわれている(丹羽, 2002)。

いくつかの研究で、親の養育態度が子どもの友人関係に影響することが明らかにされている(Price, 1996 ; 戸ヶ崎・坂野, 1997)。親への愛着から影響を受けた対人関係傾向は関係初期のような他に利用できる情報がないときに現れやすいことが指摘されている(Collins& Read, 1994)そして大学生に対し、質問紙調査を行った丹羽によると親への愛着の仕方によって友人関係初期の親密性や行動側面に差異がみられることが示されたという。

この質問紙調査では、関係初期のみについて調査されており、関係後期についての調査はされていない。そこで私達は、関係初期ではなく大学以前から交流が続いている友人との関係が、母子関係との愛着に関係があるのかについて調査、検討を行う。

## 目 的

青年期は乳幼児期と違って愛着対象によってではなく、内的な愛着対象への確信を使って安心感を維持するようになってくる。そのため、青年期において、内的作業モデルという概念が重要となる（丹羽, 2002）。そこで私たちは内的作業モデルに着目した尺度を使用した。

Bowlby (1973) によると、愛着に関する内的作業モデルは、(1) 他者は自分の要求に対してどの程度応じてくれる存在なのか、という「愛着対象（他者）に関する次元」と、(2) 自分は他者からどの程度受け入れられている存在なのか、という「自己に関する次元」の2次元から構成されている。そこで「愛着対象に関する次元」は「回避性」尺度として、また「自己に関する次元」は「両価性」尺度として構成することとした。

「回避性」を示す項目選択の基準は①母親または友人の利用可能性（ストレス状況において母親または友人を頼ることにに対する抵抗、動機づけ）、②母親または友人の情緒的応答性（母親または友人は理解してくれる、愛してくれる）の2点であり、「両価性」を示す項目選択の基準は①母親または友人へのとらわれ（母親または友人を過剰に求める傾向）、②母親または友人からの評価懸念（母親または友人から拒否されることへの不安）の2点から考えていく。

遠矢（1996）が、「親密な友人関係は適切な状況でふさわしいレベルの自己開示を相互に行いながら時間をかけて築かれたものである」と述べていることから、同じ友人でもその期間によって親密度に違いがある可能性がある」と考え、今回は「友人」を「環境が変化しても関係の続いている友人」と仮定し、「大学以前にできた友人」と限定した。

母子関係と友人関係において両価性・回避性の高低が一致するのか調べることを目的とする。

## 仮 説

母子関係の両価性と回避性が高いと友人関係の両価性と回避性も高い。

## 方 法

**本調査参加者** 愛知県内の大学に通う、青年心理学を受講している女子大生 46 名（平均年齢 19.48 歳、標準偏差 0.691）を実験参加者とした。

**本調査日時、場所** 2015 年 6 月 5 日に大学キャンパス内の教室において、集団調査として、10 時 50 分～11 時 5 分まで調査を実施した。

**本調査道具** 独自に作成した質問紙とペン（または鉛筆）1本と消しゴムを使用した。

**本調査手続き** 質問紙が手元に来たところで、年齢などを記入し、注意事項及び回答方法を確認した上で、調査参加者が自分はどうだと思う項目にチェックをする形で実施した。すべての項目に回答することが出来たら、記入漏れがないかを確認した。使用する尺度は以下の2つである。

- ① 本多（2002）の作成した「母親に対する愛着尺度」を使用した。「あてはまらない」から「あてはまる」の4件法で、全15項目である。15項目のうち、両価性が8項目、回避性7項目である。表1参照。  
星は逆転項目である。

---

表1. 母親に対する愛着尺度

---

下位尺度

---

- ★1) お母さんは私の気持ちを分かってくれます
  - 2) お母さんにどう思われているのか気にします
  - 3) お母さんにそばにいたいと思いません
  - 4) お母さんに相談するのが好きではありません
  - 5) お母さんに好かれているかどうか心配です
  - 6) お母さんにもっとかまってもらいたいです
  - 7) お母さんの言うことが気になります
  - ★8) お母さんは私の話をよく聞いてくれます
  - 9) 私の良いところだけをお母さんに見てほしいです
  - ★10) お母さんは私の考えを大切にしてくれます
  - 11) お母さんに気に入られるようにしています
  - 12) お母さんにいい子だと思われるか心配です
  - ★13) 悲しい時にお母さんと話します
  - 14) お母さんに相談したいとは思いません
  - 15) お母さんには困った時にでも相談しません
- 

- ② 友人に対しての尺度は、上記の「母親に対する愛着尺度」をもとに作成した。

「あてはまらない」から「あてはまる」の4件法で、全30項目である。30項目のうち、両価性が15項目、回避性15項目である。表2参照。

また、新しく加えた項目は、女子大学生5名の自由記述をもとに形成された。うち両価性項目は2番、3番、7番、9番、10番、12番、16番、18番の8項目であり、回避性項目は5番、6番、15番、21番、26番、29番、30番の7項目である。表2参照。  
星は逆転項目である。

---

表2. 友人に対する愛着尺度

---

下位尺度

---

- 1) その友人と一緒にいても元気になれません
  - 2) その友人に信頼してもらいたいです
  - 3) その友人と会えないと不安になります
  - 4) その友人にいい人だと思われているか心配です
  - 5) その友人と気兼ねなく話すことができません
  - ★6) その友人のそばにいたいと思います
  - 7) その友人には悩みを打ち明けてほしいです
  - 8) 悲しいときにその友人と話しません
  - 9) その友人に尊敬されているかどうか気になります
  - 10) その友人にはどんな話でもしてほしいです
  - 11) その友人は私の考えを大切にしてくれません
  - 12) その友人の心の支えになっているかどうか気になります
  - 13) その友人は私の気持ちをわかってくれません
  - 14) 私のいいところだけをその友人に見てほしいです
  - 15) その友人と一緒にいても楽しくありません
  - ★16) その友人とは常に連絡を取り合いたいとは思いません
  - 17) その友人にもっと相手にしてもらいたいです
  - 18) その友人が自分以外の誰かといることが嫌です
  - ★19) その友人に好かれているかどうか気になりません
  - ★20) その友人の言うことが気になりません
  - 21) その友人と会わない期間があると以前と同じように話せません
  - ★22) その友人にどう思われているのか気になりません
  - 23) その友人は私の話をよく聞いてくれません
  - ★24) その友人を信頼しています
  - 25) その友人に気に入られるようにしています
  - 26) その友人と一緒にいなくても平気です
  - ★27) その友人には困ったときに相談します
  - ★28) その友人に悩みを打ち明けたいと思います
  - ★29) その友人を理解したいと思います
  - ★30) その友人と一緒にいると落ち着きます
-

## 結 果

### I. 友人に対する愛着尺度の因子分析と下位尺度の分析

まず、友人に対する愛着尺度の 30 項目に対して 2 因子を固定数とし、主因子法・プロマックス回転による因子分析を行った。(表 3)

表3.友人に対する愛着尺度の因子分析結果(promax回転後の因子パターン)

項目内容		1	2
友人信頼不安 17項目	その友人と一緒にいても楽しくありません	.872	.040
	その友人と一緒にいると落ち着きます	.867	.104
	その友人を信頼しています	.863	.061
	その友人と一緒にいても元気になれません	.813	-.053
	その友人を理解したいと思います	.751	-.234
	その友人は私の話をよく聞いてくれません	.746	-.120
	その友人と気兼ねなく話すことができません	.735	.209
	その友人と会わない期間があると以前と同じようには話せません	.701	.209
	その友人は私の気持ちを分かってくれませんが	.690	.071
	その友人は私の考えを大切にしてくれませんが	.689	.005
	悲しい時にその友人と話しません	.675	.166
	その友人には悩みを打ち明けてほしいです	-.609	.406
	その友人のそばにいたいと思います	.581	-.321
	私の良いところだけをその友人に見てほしいです	.570	.534
	その友人を信頼してもらいたいです	-.532	.336
	その友人にはどんな話でもしてほしいです	-.532	.214
	その友人に悩みを打ち明けたいです	.424	.225
<b>その友人には困ったときに相談します</b>	.342	.309	
<b>その友人が自分以外の誰かといることが嫌です</b>	.294	.274	
友人見捨てられ不安 10項目	その友人にもっと相手にしてもらいたいです	-.059	.596
	その友人の心の支えになっているかどうか気になります	-.069	.593
	その友人に好かれているかどうか気になりません	-.136	.582
	その友人の言うことが気になりません	-.130	.538
	その友人に尊敬されているかどうか気になります	.312	.494
	その友人にどう思われているのか気になりません	.071	.491
	その友人と会えないと不安になります	-.392	.477
	その友人にいい人だと思われているか心配です	.183	.434
	その友人とは常に連絡を取り合いたいとは思いません	-.188	.416
	その友人に気に入られるようにしています	.123	.396
<b>その友人と一緒にいなくても平気です</b>	-.018	-.124	
因子間相関	1	2	
	1	-.061	
	2	-	

その結果、因子負荷量が.350 を満たなかった「その友人には困ったときに相談します」、  
「その友人が自分以外の誰かといることが嫌です」と「その友人と一緒にいなくても平気  
です」の 3 項目を削除した。第一因子は友人との信頼関係に関係していることから「友人  
信頼不安」、第二因子は友人に見捨てられないかと不安に思っていることから「友人見捨て  
られ不安」と命名した。

また下位尺度の分析として、友人に対する愛着尺度の 2 つの下位尺度の平均、SD、 $\alpha$  係  
数を算出した (表 4)

内的整合性を検討するために下位尺度ごとに信頼性分析を行ったところ「友人信頼不安」の「その友人に悩みを打ち明けてほしいです」という項目を削除すると $\alpha$ 係数が 0.843 になるため、この項目を削除し、26 項目で行った。(表 4)

表4. 友人に対する愛着尺度の下位尺度ごとの平均、SD、 $\alpha$ 係数

	平均	SD	$\alpha$ 係数	
友人信頼不安	1.772	0.730	0.843	
友人見捨てられ不安	2.387	0.335	0.777	

## II. 母親に対する愛着尺度

次に、母親の愛着尺度の下位尺度の分析として、2 つの下位尺度の平均、SD、 $\alpha$ 係数を算出した (表 5)

表5. 母親に対する愛着尺度の下位尺度ごとの平均、SD、 $\alpha$ 係数

	平均	SD	$\alpha$ 係数
母親回避性	1.992	0.158	0.886
母親両価性	1.947	0.248	0.801

## III. 友人に対する愛着尺度と母親に対する愛着尺度との関連

友人に対する愛着尺度と母親に対する愛着尺度との関連性を検討するため 2 つの下位尺度の相関係数を算出した。(表 6)

表6. 友人に対する愛着尺度と母親に対する愛着尺度の下位尺度間の相関

	友人信頼不安	友人見捨てられ不安	母親回避性	母親両価性
友人信頼不安	-	.021	.254	.430**
友人見捨てられ不安		-	.106	.158
母親回避性			-	.330*
母親両価性				-

\*\*p<.05      \*\*p<.01

表 6 より、「友人信頼不安」と「母親両価性」の間に中程度の正の相関がみられた ( $r=0.430, p<0.1$ )。また、「母親回避性」と「母親両価性」の間に弱い正の相関がみられた ( $r=0.330, p<0.5$ )。

## 考 察

本調査の目的は母子関係と友人関係において両価性・回避性の高低が一致するの  
か調べることであった。

本調査では冒頭でも述べたとおり、母親の尺度を「回避性」と「両価性」に分け  
た。「回避性」の基準を①母親の利用可能性、②母親の情緒的応答性の2点とした。  
この項目の数値が高いほどストレス状況で母親に対して抵抗を示し、また母親は  
自分を理解してくれていないと考える傾向にあるといえる。一方「両価性」の基  
準は①母親へのとらわれ、②母親からの評価懸念の2点とした。この項目の数値が  
高いほど母親を過剰に求め、拒否されることに不安を抱く傾向があるといえる。  
以上のことから両者とも数値が高いほど母親との間に十分な信頼関係が築けて  
おらず、母子関係がうまくいっていないと考えることができる。

一方友人の尺度は「友人信頼不安」と「見捨てられ不安」に分けた。この項目の  
数値が高いほど友人に対する信頼感に不安があると考えられる。また「見捨てら  
れ不安」の数値の項目が高いほど相手のことを意識し、見捨てられることを恐れ  
る傾向にあるといえる。以上のことから両者とも数値が高いほど友人との間に十  
分な信頼関係が形成されておらず、友人関係が良好でないといえる。

まず、母子関係と友人関係との関連を見ていく。表6からわかるように、母親の  
両価性と友人関係の信頼不安の間に中程度の正の相関がみられることが分かった。  
女子大生に調査した田村（2011）によると「母親への依存が高いほど『他者への  
懸念』行動をとることが示された。これは母親に対して依存的存在であるがゆえに、  
相手の態度を気にしてしまい顔色をうかがうような行動をとりがちになるという  
可能性が考えられる。」と述べているように、母親との関係を気にするなど母親  
からの愛情に不安を抱いている人は、友人との信頼関係にも不安を抱く傾向があ  
るといえる。このことは、母親から拒否されることへの不安や母親を過剰に求め  
る傾向が友人関係に対する信頼不安に影響したためと考えられる。更に、母親の  
回避性と友人の信頼関係の間にも弱い正の相関がみられたことから、母親を信頼  
しないなど回避的な行動傾向がある人も、友人との信頼関係において不安を抱く  
傾向があるということが分かる。つまり、母子間で信頼関係が形成されていない  
と子どもは母親に対して回避的な行動をみせるため、友人関係においても同じよ  
うな行動をとり、結果信頼関係を形成することができなくなるためであると推測  
できる。

母親の回避性、両価性はどちらも友人関係の見捨てられ不安との間に相関はみら  
れないことが分かった。酒井（2001）は「青年期の愛着関係は共通して、就学前  
の母子関係が安定していると、現在の愛着関係における自己信頼感や、相手への  
信頼感が強められる傾向があった。しかし、友人関係を青年期の愛着対象とし

た群に関してはその説明率は低く幼少期の母子関係が与える影響は、他の青年期の愛着関係と比較して弱い傾向を示している。」と述べている。本調査では「恋人」ではなく「友人」に限定して調査を行ったため、このような結果になったのではないかと考える。また、見捨てられ不安は、友人関係が構築されてからの不安である。本調査では「友人」を「環境が変化しても関係の続いている友人」と仮定し、「大学以前にできた友人」と限定し調査を行った。そのため、幼い頃との母親との関係よりも、友人の性格等に影響されるのではないかと考えた。その友人からの支えがあることによって自己肯定をすることができ、その結果相関を見ることが出来なかったのではないかと考える。

以上のことから仮説である「母子関係の両価性と回避性が高いと友人関係の両価性と回避性も高くなる」の一部が実証されたといえる。

次に本調査では母親の回避性と両価性の間にも弱い内部相関がみられた。このことから母親に抵抗する傾向のある人は、同時に母親からの評価を過剰に気にする傾向があるといえる。それは、母親に対する信頼が十分でないため自分が母親から愛されているのかを自分自身で確認し、本当の自分を出すことができない傾向にあると考えられる。

一方回避に関して見ていくと、子どもが母親を回避する理由としては、親と何らかの衝突や母親の気分で怒られるなどをされたゆえに、母親に対する恐怖心や不信感により母親と関わることを避けようとしてしまうためと考えられる。しかし、そうして回避をしてしまうが、母親は自分に1番近い存在であるため、嫌われたくはないという気持ちから自分への評価を過剰に気にするようになり、結果母親に対して回避的行動と両価的行動の両方をとることになるのだと考えた。

問題点として、今回はサンプル数が46と非常に少なかったため、次回はサンプル数を増やすことが必要であると考えられる。また、今回は女子大生を中心に質問紙調査を行ったため、男子大学生にも質問紙調査を実施することで性差が現れ、比較することができるのではないかと考える。

また、本来、本多（2002）の尺度では、2つの尺度の高低の組み合わせで、「愛着恐怖型」「愛着軽視型」「とらわれ型」「安定型」の4つの愛着スタイルに分類される。本調査ではその組み合わせによる分類を行わず、高低のみで判断したため、そのスタイルに合わせ分析を行えばまた違う結果があらわれたのではないかと考える。

## 引用文献



- Bowlby, J. 1969 Attachment and loss: Vol. 1, Attachment. New York: Basic Books
- Bowlby, J. 1973 Attachment and loss: Vol. 2, Attachment. New York: Basic Books
- Collins, Nancy L.; Read, Stephen J. Bartholomew, Kim (Ed); Perlman, Daniel (Ed), 1994 Cognitive representations of attachment: The structure and function of working models Attachment processes in adulthood. Advances in personal relationships, Vol. 5. (pp. 53-90).
- 金政祐司 2007 青年期の愛着スタイルと友人関係における適応性との関連 社会心理学研究 第22巻第3号 274-284
- 酒井厚 2001 青年期の愛着関係と就学前の母子関係：内的作業モデル尺度作成の試み 性格心理学研究 9(2), 59-70, 日本パーソナリティ心理学会
- 田村陽子 2011 女子大学生における絆・依存に基づく母娘関係が母親への愛着行動、交流頻度にもたらす影響 日本青年心理学会大会発表論文集 (19), 56-57,
- 遠矢幸子 1996 友人関係の特質と展開 大坊郁夫・奥野秀宇（編）親密な対人関係の科学 誠信書房 p 90-116
- 丹羽智美 2002 青年期における親への愛着が友人関係に及ぼす影響—環境移行期に着目して—
- 本田潤子 2002 児童の「母親に対する愛着」測定尺度の作成 カウンセリング研究, 35, 246-24